

高血圧と眼

太田中央眼科 院長
杉山 正和 先生

眼底検査の健康診断結果で、動脈硬化や高血圧を指摘されてビックリする人がいます。

血管の状態を直接観察できる唯一の場所が眼底なので、眼の病気だけでなく、血管の状態から動脈硬化も発見でき、ひいては高血圧の存在を発見することができるのです。

このように健康診断などで行われる眼底検査は、高血圧に関しては二つの目的があります。一つは高血圧網膜症の早期発見。高血圧網膜症は、全くといってよいほど自覚症状を伴わずに進行し、いったん視力障害が起きると回復はかなり困難です。眼底検査で早いうちに異常を発見できれば、視力障害の発生を未然に防げます。もう一つの目的は、高血圧による全身合併症の危険の予測です。眼底の血管に異常が起きていれば、眼底以外の血管も同じように高血圧の影響が現れている可能性が高いです。網膜血管の変化のレベルと脳梗塞や心筋梗塞の発作の発生率には、深い関連があり、その予防に役立ちます。

高血圧状態では血管の壁に大きな負担が掛かります。血管壁はその負担に対応するために硬く変化し、動脈硬化を起こします。動脈硬化が進行すると血管内径が狭くなって、ますます血圧が上がります。さらに進行すると血流が途絶え、そこから先の細胞の機能が停止します。これが脳で起こるのが脳梗塞、心臓で起こるのが心筋梗塞です。

高血圧ではほとんどの場合は自覚症状はありません。異常を感じないからといって治療せずにいると、心臓病や腎臓病、網膜症などさまざまな合併症が発生してしまいます。

サイレントキラー＝静かなる殺人者。これは高血圧という病気の特徴を端的に表現した呼び方です。高血圧を放っておくと、あるとき突然重大な病名を突き付けられることになりかねません。そうなる前に早めに発見して、適切な治療を進めていくのがお勧めです。